あまねく人々を癒す『心のふるさと伊勢二見』

50

伊勢（いせ）・二見（ふたみ）

（三重県 伊勢市）

注目 ポイント ！

○ 伊勢神宮、およびその鳥居前町の町並みを活かした快適空間づくり。

○ 行政、企業・NPO等の民間、住民の3者が協働して観光振興を推進。

おかげ横丁の入込客数が約200万人から約340万人に！
（平成6年）　（平成17年）

内宮宇治橋鳥居からの日の出

◇◇ コラム ◇◇

濱田氏のまちづくりへの取り組みは、濱田氏が社長を務める会社自ら整備した「おかげ横丁」だけに留まらず、自らリーダーシップをとり、「伊勢市まちなみ保全条例」の制定を働きかけた。さらに、既存の建築物の保全再生のみならず、「おはらい町」通りにも伊勢らしい建築物を新しく造ろうと、市に働きかけ「伊勢市町並み保全事業基金」をつくり、うどん屋や食堂だけでなく、郵便局や銀行までも伊勢の伝統的な木造建築に生まれ変わらせるきっかけをつくり、新しい伊勢のまちづくりに貢献している。

観光カリスマ
伊勢商工会議所会頭
濱田　益嗣氏

これまでの経緯

昭和５４年（１９７９）	内宮門前町再開発委員会が結成される。
平成 元年（１９８９）	「伊勢市まちなみ保全条例」が制定される。
平成　４年（１９９２）	おはらい町における無電柱化工事が完了。
平成　５年（１９９３）	おはらい町における道路再舗装（石畳）工事が完了。 おかげ横丁オープン。
平成１３年（２００１）	「二見町の景観・文化を守り、育て、創る条例」が制定される。
平成１５年（２００３）	河崎「川の駅」が開設される。
平成１６年（２００４）	二軒茶屋「川の駅」が開設される。 神宮を参拝される賓客の宿泊施設であった賓日館が県の有形文化財に指定される。 「おひなさまめぐりin二見」を表参道沿道等にて実施する。
平成１７年（２００５）	伊勢船型復元木造船「みずき」が、各「海の駅」～「川の駅」間を就航。 中部国際空港～神社「海の駅」（一部開設済）間を高速船「伊勢1号」が就航。
平成１８年（２００６）	神社「海の駅」が開設される。

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）の特別賞として選定されたプランに含まれています。

主な取り組み

内宮おはらい町

「次の御遷宮までに、なんとかせないかん」を合言葉に、昭和50年代、かつての賑わいを取り戻すため地元住民が動き出し、住民･企業･行政が協働し住民主導型のまちづくりをスタート。10年の歳月をかけ『この町はあくまでも生活の場であり、町を保存するだけでなく、再生しようという地元の考えを尊重』した条例を制定。伊勢らしい古い町並の新たな創出と再生に重点を置く一方、今の暮らしにも不便をかけない、生活の匂いのするまちづくりを行っている。

おはらい町内のお木曳

二見町旅館街･おひなさまめぐりin二見

夫婦岩（二見興玉神社）の表参道として形成された旅館街。平成14年度から、地区内にて道路美装化や住宅等の修景整備等を実施。

また、観光客誘致のため地域住民が中心となり、「おひなさまめぐりin二見」を平成16年度より表参道沿道等にて実施。様々なおひなさまを91箇所に展示、土びなづくり体験、飲食店等における特別メニュー等により、平成17年度には約6万人の入込み客数を達成。

民家での展示

賓日館での展示

おかげ横丁

おかげ横丁

衰退した町の活性化のため、地元企業が昭和50年代から構想を練り、平成5年の御遷宮にあわせることを目標に多額の費用を投じ、7年がかりでおかげ横丁を誕生させた。庶民的、開放的な空間で、旅の楽しみを付加し休憩場所としての役割も果たしている。

全国から人々が集まり、伊勢の物産を味わっている。

海の駅･川の駅と復元木造船

中部国際空港（セントレア）と神社（かみやしろ）「海の駅」とを結ぶ伊勢湾航路と、市内計4ヶ所にある「海の駅」、「川の駅」とを結ぶ伊勢船型復元木造船「みずき」により、船参宮の風情を再現。

河崎「川の駅」

木造船「みずき」

問い合わせ先

○伊勢市まちづくり推進部まちづくり推進課
Tel：0596－21－5511　http://www.city.ise.mie.jp
○伊勢市二見総合支所地域振興課
Tel：0596－42－1111　http://www.city.ise.mie.jp